

2008 年度事業報告

1. 2008 年度事業の概観

2008 年度の事業は大きな変更もなく滞りなく実施することができ、各事業とも当初の目標を達成することができました。なお、事業内容に一部変更があった件につきましては、2009 年 3 月の理事会で承認していただいております。

(1) 海外の小中高校における日本語教育を促進する事業

・大連市教育局に協力し、中学校の日本語教育の環境整備に取り組む

2006 年度より教師研修、教科書編集制作、日本語教師派遣等の事業を行ってきました。

中国初の行政主導による第二外国語教育としての日本語教育の導入が順調に進んでいることが注目されます。現在中学校の日本語学習者は 8,000 人、実施校は 30 校を超えています。

・日本の文化と小中高校生の素顔をヴィジュアルに紹介+日本語の授業アイデアを提供

主に海外の日本語教師に向けて、紙媒体（英文及び中文情報誌の発行）及びウェブサイトですさまざまな情報を発信しました。TJF ウェブサイト内に、「くりっくにっぽん」（日本の文化と人びと+日本語のクラスアイデア）と、「高校生のフォトフォトフォト！」をオープンしました。「高校生のフォトフォトフォト！」は、保存版として再編成した高校生フォトメッセージコンテスト関連のサイトと、同コンテストを継承したよみうり写真大賞高校生の部の入賞作品及び全国の高校写真部の作品を紹介する新規サイトを統合したものです。

(2) 日本の高校における中国語及び韓国語教育を促進する事業

TJF が中心となって作成した「学習のめやす」の普及と「学習のめやす」を使った授業実践例の収集を行うとともに、教師研修を共催して、各言語教育の環境整備に取り組みました。高校生にことばと文化の学びを奨励する事業や、教育行政者や学校管理者の関心を喚起し、提携関係を構築していくことにも力を注ぎました。

(3) 海外の日本語学習者と日本の同世代間をつなぐ交流事業

世界の中高校生の交流サイト「つながーる」の広報活動を国内外で精力的に展開しました。「つながーる」は、国内外の小中高校生をつなぐインターネット上の交流の場を提供するもので、未知の部分も多い事業ながら、これまでに構築した海外の日本語教師や国内の外国語教師等の協力を得て、現在 13 ヶ国、900 名を超える中高校生が登録するなど、広がりを見せています。

(4) TJF 広報・ネットワーク活動

上記の各事業の広報活動に取り組むとともに、日本・中国・韓国を中心に公的機関をはじめ、教師、日本国内の民間財団、企業、研究者学会関係者等とのネットワーク活動を行いました。

2. 2008年度主要事業一覧：各事業の実施概要

	事業名	実施時期/場所	事業内容
A	日本語教育関連事業		
1	大連市中学校日本語教師研修会の共催	7/29-8/7 (10日間)/ 大連	中学校教師45名を対象に、日本語力向上・教授法・教科書の使い方の三つのコースを実施。日本人講師計10名(日本からの派遣3名。国際交流基金やJICA派遣の在日日本人講師7名)。大連側の要望に応え日本の伝統文化を体験するプログラムを組み込み好評を得た。オリンピックの影響で、当初計画していた日本語初級者を対象とする2週間の集中研修は変更を余儀なくされ、研修効果は限られたものになった。今後の中長期的教師研修計画の策定が必要であることを日中で確認し、研修会の会期中及び年度内にかけて、評価の専門家の協力を得て、中高校の教師(推定約100名)の日本語力評価と課題分析に協力した。
2	大連市中高校日本語教師訪日研修への協力	1/28-3/20 (52日間)/ 東京、埼玉	中高校日本語教師4名の訪日研修が決まり、受け入れに協力した。研修は国際交流基金日本語国際センターに委託、事前の日本語ブラッシュアップ研修や事後の京都旅行、関東近辺のホームステイ、学校訪問等の手配をした。研修生4名の努力もあり、日本理解や日本語力に飛躍的な向上がみられ大きな成果を上げた。当初大連側の全額負担の予定だったが、予算不足のためTJFと同基金で費用を一部負担した。
3	大連市中学校日本語教科書の共同編集出版	通年 (8月出版)/ 大連、東京	中国初の第二外国語教育用日本語教科書『好朋友-ともだち-』の日中共同編集制作プロジェクトを継続。全5冊シリーズの内、第3冊(B5版/130頁/カラー/6,000部。CD2枚付)を8月に出版。物語漫画を本文に据え、コミュニケーション能力や多文化理解、人となつて育つ力の育成をめざした内容となっている。前2冊よりさらに写真、イラストを充実させ、中学生や教師から高い評価を得ている。学習者は5,000人以上に達した。9月以降は第4-5冊の2冊分全体を見通したシラバスの作成・編集執筆を先行させ、出版は2冊とも2009年4月以降に行うことに計画を変更した。全5冊に登場する物語漫画の制作は完了。教科書付属のひらがな、カタカナカード各50セットも制作。2009年度に全5冊が完成する予定。
4	大連市日本語教育関連プロジェクトへの協力 ①大連市中学校への日本語教師派遣 ②大連市中学校優秀日本語教師の日本招聘	①2008.8- 2010.3/ 大連 ②5/9-5/15 (7日間)/ 東京、神奈川他	①文部科学省・神奈川県教委と提携し同県内の高校教諭1名を2代目REX日本語教師として大連の中学校に派遣中。TJFは現地での生活費・往復航空運賃・渡航費を負担した。現地での貢献度が高く評価されている。 ②A-3の教科書の普及と教育方法の共有化をめざし、教科書を使った授業実践例を募集。応募者から優れた授業実践を行った優秀教師2名を選考し日本に招聘。 ③大連市教育局派遣の日本語教育実施校の校長団の訪日研修は見送りとなった。それに代えて、B-3の神奈川県教育代表団を大連市に派遣し学校交流を促進した。
5	遼寧省小学校日本語教科書の編集出版助成	通年/瀋陽	遼寧省基礎教育研究教師研修センターによる小学校日本語教科書『日語教材』(B5版/70頁/カラー。テープ2本付)全6冊シリーズの内、2008年度は既存の第1-4冊の前後にくるプレ冊と第5冊の編集制作に協力した。2009年度はプレ冊を出版する予定(5,000部)。
6	日本事情・日本語の授業案を紹介するウェブサイト「くりっくにっぽん」の制作	1月オープン	今後のTJFの海外日本語教育支援事業の一つの柱として、日本に興味をもつ人や日本語教育関係者を対象に、現代日本を文章と写真で紹介するサイトを新設した。サイト内には「日本の文化と人びと」と「日本語のクラスアイデア」の二つのコーナーがあり、前者では情報誌『Takarabako』や『ひだまり』で取り上げた素材をテーマ別に分類し、日英中の3言語で掲載、後者はそれらの素材を活用した日本語の授業アイデアを収集し掲載している。

7	「TJFフォトデータバンク日本編」ウェブサイトの制作運営	通年	現代日本の若者の生活文化を中心とする日本関連写真を教育目的のために無償で提供するサイト。2008年度はプリクラ、まんが喫茶、沖縄、家庭料理などの写真246枚を追加、2009年3月末現在、掲載写真は3,716枚、登録者数は7,474名に達した。内、2008年度の新規登録者数は676名(中国編と合同)。日英中の3言語でキーワード検索が可能。数少ない写真データベースとして日本語教育現場から高い評価を得ている。
8	英語圏の小中高校日本語教師向け英文情報誌『Takarabako』の発行とウェブサイト制作運営	6月、9月、12月、3月/英語圏	A4判、4色、8頁、年4回(第16-19号)、毎号6,000部を発行し、主に海外の小中高校の日本語教育現場に送付した。PDF版をウェブサイトにも掲載。毎号海外の小中高校生が関心をもつ話題を取り上げ、日本の現代事情・文化を紹介するとともに、日本に住む小中高校生を紹介した。2008年度は「写真の楽しみ」「広がりをもせるボランティア」「世代を超えて楽しめるゲーム」「日本の中高校生の進路」を取り上げた。
9	中国の中高校日本語教師向け中文情報誌『ひだまり』の発行とウェブサイト制作運営	6月、9月、12月、3月/中国	A4判、4色、8頁、年4回(35-38号)、毎号1,900部を発行し、主に中国の中高校の日本語教育現場に送付した。PDF版をウェブサイトにも掲載。内容はA-8の『Takarabako』と共有している。
10	日本語教育TJFネット	釜山、東京他	日本語教育国際研究大会(ICJLE/7/11-7/13/釜山/参加者約5000名)、日本語教育学会(東京/参加者約1000名)等の大会・研究会・会合に参加し、TJF事業を広報するとともに関係者とのネットワークを図った。ICJLEでは初等中等教育のセッションを企画主催し、発表者の招聘費用を一部負担した。
B 中国語教育関連事業			
1	高等学校中国語教師研修会共催	7/27-8/17(22日間)/長春	5ヵ年計画の最終回。高校教諭・常勤講師18名を対象に、吉林大学講師陣が、中国語のコミュニケーション能力と教授法の向上をめざした研修を実施した。TJFはカリキュラム作成/参加者募集・選考/日本からの講師2名の派遣や現地の日本語教師との交流等を手配した。
2	高等学校中国語教育研究会活動協力・助成	通年/日本国内各地	高中研の事務局を担当。6月熊本で開催された全国大会の実施をはじめ、8つの支部が実施した学習発表会等の活動に対して協力・助成。現在会員数約210名。
3	中国語を学ぶ日本の高校生のための中国短期研修	7/24-8/3(11日間)/大連	高校生92名、引率教師4名を含む計100名を大連市に派遣。オリンピックの影響で一部プログラムを変更しなければならなかったが、参加者は大連交通大学の講師陣から中国語を学び、学んだ中国語を使って買い物や体験したり、多様な文化にふれたりした。後半はE-3の中国の高校生との合同研修も初めて実現し、日中の高校生同士の交流を深めることができた。研修が中国語学習意欲の高まりや中国へのイメージの好転に大きく影響を及ぼしたことが参加者のレポートからも読み取れた。
4	地域の教育代表団の中国派遣	12/22-12/25(4日間)/大連	遼寧省と友好提携関係にある神奈川県私立中高校9校の理事長、校長等計14名を大連に派遣。大連市内の中高校訪問(授業見学、生徒との交流)、日本の学校との交流を希望する市内の中高校10校の校長との交流、伝統文化の体験、大連市内や旅順の見学などを通じて、中国語・中国理解教育及び大連の学校との交流への関心が予想以上に高まった。
5	「TJFフォトデータバンク中国編」ウェブサイト制作運営	通年	中国語教育や中国理解教育のために、小中高校生を中心とする中国の人の日常生活や、教育、社会、文化、自然などに関する写真のデータベースを無償で提供するサイト。2008年度は、食、ゴミ箱、電話、祝い事などの写真約100枚を追加。2009年3月末現在、掲載写真は2,000枚を超え、登録者数は国内外あわせて7,474名。うち2008年度の新規登録者数は676名(日本編合同)。
6	高校中国語教師向け情報誌『小溪』発行とウェブサイト制作運営	通年/日本国内	A4判、8頁、年4回(第36-39号)、毎号1,100部を発行し、中国語教育に取り組む日本の高校約800校の教師、大学の中国語教育関係者など、約1,000名に送付。「中国語で語る私たちの生活」「授業の工夫」「中国の中高生」の三つのシリーズを中心に、中国語教育関連の情報を提供、PDF版をウェブサイトにも掲載、小溪ネット(メーリングリスト)でも随時情報を配信した。
7	中国語教育TJFネット	通年/日本国内各地、北京	高中研関連の大会、研究会、中国語教育学会、北京漢弁との会合等に参加し関係者とのネットワークを強化。日本中国友好協会主催の全日本中国語スピーチコンテストを後援し、入賞者の中から高校生1名に国際文化フォーラム賞を授与した。

C 韓国語教育関連事業			
1	韓国語教師研修共催	8/11-8/16 (6日間)/ 大阪	高校と大学ほか市民講座等の韓国語講師100名を対象に、油谷幸利教授ほか計21名の講師陣が韓国語の語学力及び教授法に関する研修を実施した。これまで東京と京都で開催してきた研修会を合同で実施し、多様な講師陣による充実した研修を行うことをめざした。
2	高等学校韓国朝鮮語教育研究活動協力	8/17-8/18/大阪	高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク(JAKEHS)。会員約150名。全国研修会や各地域ブロックの活動(高校向け韓国語教科書編集出版、授業アイデア集の編集制作などに協力した。
3	クムホ・アジアナ杯「話してみよう韓国語」高校生大会共催	①第1回:2008年3月下旬~5月7日(本選6/14)/東京 ②第2回:2008年11月~2009年1月16日本選3/21/東京	3月本選が望ましいということで2回開催。2009年度からは毎年1回3月に実施する予定。韓国語スキット、韓国語スピーチ、日本語エッセイの3部門から構成。初めての試みながら、応募者はそれぞれ①計494名。各部門では115組230名、65名、199名。②計481名。各部門では129組258名、21名、202名に達した。学校教育以外の場で韓国語を学んだり、韓国語や韓国に関心をもっている高校生が相当数おり、多様であることを認識した。入賞者16名全員に5泊6日の韓国研修ツアー、最優秀者計4名にはさらに韓国の大学での3週間の韓国語研修が副賞として授与された。梅田博之麗沢大学前学長を委員長に計4名が審査にあたった。TJFは事務局を担当した。
4	韓国朝鮮語教育TJFネット	通年/日本国内各地	①従来から実施されていた韓国文化院主催の「話してみよう韓国語」高校生部門を継続して後援。同部門はC-3アジアナ杯と連携させることになった。②神田外語大学主催の韓国朝鮮語教員免許取得講座の開講に協力した。③韓国語教育関連の学会、研究会、会合等に参加し、関係者とのネットワークを強化した。
D 日・中・韓国語教育連携事業			
1	「高校中国語と韓国朝鮮語の学習のめやす」プロジェクト実施(研修の実施)	①8/4-8/6/大阪 ②8/6-8/8/札幌 ③8/13-8/15/東京 ④通年/大阪	「高等学校の中国語・韓国朝鮮語の学習のめやす」の普及活動及び「めやす」を使った授業実践例の収集を行った。東京、大阪、札幌など、国内各地で開催された高校中国語、韓国語教師研修会で、「めやす」を説明し授業実践発表を行った。高校中国語教師研修では①31名、②11名、③25名を対象に、各大学の講師陣や「めやす」作成メンバーが研修にあたった。④新規に大阪府教委と提携して中国語、韓国語の高校の教師から成るプロジェクトチームを立ち上げ、めやすを使った授業実践について研究した。
2	「フォーラム2008:日中韓の食文化」共催	11/6 東京	日中韓のテレビCMから読み取る食文化の比較研究の講演及び中国・韓国料理研究家の対談を通じて、それぞれの食文化の相違性、共通性を探った。約150名が参加、料理に表れるそれぞれの国の食文化の特徴や人びとの考え方などについて関心を深めた。
E 海外の日本語学習者と日本の同世代間をつなぐ交流事業			
1	高校生のフォトフォトフォト!ウェブサイト制作	通年	TJFウェブサイトにあった、①10年にわたって開催した「高校生フォトメッセージコンテスト」、②同コンテストの作品から100作品を厳選し英訳をつけた「The Way We Are」、③10周年記念写真撮影交流「Focus on Japan 2007」の三つのコーナーを保存版として再編成。更に④高校生フォトメッセージコンテストの開催を通じてネットワークを構築した全国の高校写真部の生徒が日ごろ撮影している写真を発表する場「高校生写真ギャラリー」と、⑤高校生フォトメッセージコンテストの趣旨を2008年より引き継いだ「よみうり写真大賞」高校生部門「フォトエッセーの部」の入賞作品の一部をTJFで英訳して掲載する「The Way We Are II」の二つのコーナーを新設。これら五つのコーナーで構成されるウェブページ「高校生のフォトフォトフォト!」を新設する準備を行った(2009年5月オープン)。
2	世界の中高校生交流ウェブサイト「つながる」制作運営	通年	世界の中高校生を対象とするSNSを使った交流サイト「つながる」を運営した。システム開発も継続しつつ、日本各地とオーストラリア、ニュージーランド、米国、カナダ、韓国、中国でワークショップや説明会、学校訪問を実施し、広報に力を注いだ。2009年2月末現在、13ヵ国・地域の中高校生約900名が登録、多言語でエッセイや写真などを発信しながらマイページやコミュニティのコーナーで交流した。クローズドコミュニティを使った交流、日本語の授業とリンクさせた交流も行われている。中高校生たちが安全な環境で参加できるよう、プライバシーの保護やセキュリティに十分な配慮をしている。

3	日中高校生交流プログラム共催 (日本語を学ぶ中国の高校生48名、引率教師等、計52名)	7/30-8/3/ 大連	B-3に参加した日本の高校生92名の大連研修にあわせ、中国東北部で日本語を学ぶ高校生48名と引率教師4名、計52名を大連に招聘し、日中高校生の合同研修を初めて実施した。寝食をともにし、スポーツや買物、餃子づくり、共同グループ発表など一緒にすごした5日間は双方にとって印象深いものとなった。本プログラムでできた友達とその後メールや手紙で交流を継続している高校生も多い。このような直接交流が生徒の言語学習や文化理解、相互理解に有益であることを再検証した。
4	日中学校交流活動協力	①7月/東京 ②11/14-11/20/ 東京	①これまでに橋渡しをした遼寧省と神奈川・東京の小中高校の交流10組の中で、2008年は初めて大連市の中学校の教師・生徒一行が東京の相手中学校を訪問し交流を深めた。 ②年度途中に、北京市教育局直属機関の北京市国際教育交流センター(BIEE)から要請があり、北京市教育代表団一行24名の受入プログラムの企画や手配に協力をした。一行は日本の教育事情を視察し、今後の学校間交流の可能性を模索した。
5	日米学校交流活動協力	通年/ 日本国内各地 米国ウィスコンシン州内各地	ウィスコンシン州の各市と群馬・千葉・愛媛の各市との間で橋渡しした、3組の学校交流(生徒の相互訪問)に協力している。2008年度は、6月にフランクリン高校生9名が新居浜市を、10月には新居浜市の中学生20名がフランクリンを訪問した。また、富里市内の中学生11名が10月にメクオン市を、9月には前橋市内の中学生15名がメナーシャ市を、3月には都立大崎高校の生徒9名がメナーシャ市を訪問した。いずれの事例も、日本側の中高生は訪問先でホームステイをしたり、現地の学校に通学したりするなど交流を深めた。
6	国際理解教育研究活動協力	通年/大阪	海外に日本語教師として派遣された日本の小中高校教師(英語教諭が多い)を中心会員とした国際教育活動法人REX-NETの活動に協力した。英語教育と英語圏の日本語教育をつなげる上で重要なネットワークとなっている。
7	国際理解教育TJFネット	通年	学会や研究会、ミニ研修、取材会議等に参加した関係者とのネットワークを広げた。
F TJF広報活動			
1	『国際文化フォーラム通信』発行とウェブサイト制作運営	4月、7月、10月、1月/ 日本国内	TJFの機関誌(A4判、2色、16頁、年4回、5,000部)。特集として、No.78「中国語を学ぶ仲間と中国に行こう」、No.79「知りたい日本、伝えている日本」、No.80「韓国語っておもしろい!」、No.81「21世紀を担う子どもたちに身につけてほしいもの」を取り上げた。
2	『TJF事業報告2006-2007』発行 A4版、2色、和文:56ページ/1000部、英文32ページ/500部	10月(和)、11月(英)/日本国内 TJFサイト	「特別レポート」には、中国の小中高校における日本語教育の目的や経過、成果、課題などを総括した。